

# じとせんひろば



№. 30  
発行 63. 7. 10  
地御前コミュニティ  
推進協議会

## 21世紀へ飛躍のかけ橋コミュニティ



**人のふれあい  
夢は未来に花ひらく**

「人のふれあい、夢は未来に花ひらく」を合言葉に6月14日小学校体育館で「演芸ふれあい祭典」15日体育館で運動会、14・15日公民館で作品展示会をコ推進主催で開催した。

皆様方のご協力で盛大のうちに終了した。地域連帯によるご援助衷心お礼申し上げます。

市制記念行事実施にあたり、親睦と連帯、互助の精神はコ推進の

**コ推進会長 伏本 節夫**

趣旨を生かすようつとめた。

**演芸ふれあい祭典**

場所の広い小学校体育館で実施、一般の希望者も出演され、演技される人、見られる人、公民館祭とは異なる雰囲気でした。

二五種目二百名近くの出演者。

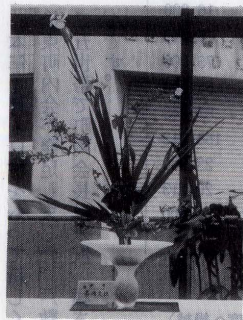
浜之町吉本清一さん(93才)の小品、歌や踊り、大正琴、三味線など自慢の芸を披露され、客席から盛んな拍手が送られた。

**チャール 華麗な応援**

雨天のため体育館で開催、市制施行を祝う、くす玉を割り、21世紀への旅立ちにちなんだ、21羽の鳩が屋外へ放された。

新調された優勝旗の紹介。山下ご一家三代の選手宣誓。随所に創意工夫された演出でした。

チャールルの競演は他地区にみられない伝統的演出、可愛らしい演技、今回も好評でした。



**趣味作品展**

市制記念事業の一環として開催した趣味 作品展は一般の方々の出演、出品を優先し、残りを公民館での学習者にと基本的運営方針をとった。

一七種目、一六〇名の各自趣味を生かした貴重な作品でした。



## “温かいふれ合いのまち” 地御前

公民館に勤務させていただいて一年経いました。戸惑いながらも、みなさんの温かいご支援とご協力によりまして、どうにか過ごすことができました。それは、地御前地区のみなさん方のお互いによる温かいふれ合いのまちづくりができていくということ。住みよいまちづくりを目ざして発足したコミュニティ推進協議会十年の歩みの歴史の結果が表われているのだと感じているところでございます。

地御前公民館は、昭和四十八年開館され、今年、十五周年を迎えます。公民館活動十五年の歩みを少しでも整理したいと、記録をひもどいております中で、他地区では見られない、コ推進のすばらしいふれ合い活動の記録が残されております。一つの例として、昭和五十三年には、交通安全教室もたれたり、ラジオ体操への参加を呼びかけられたり、また、人間的ふれ合いを深めるとともに、健康増進、歴史探訪を目的とした、歩

こう会には、約二百五十名の方が参加され、盛大に行なわれております。

また、昨年、地域のみなさん方の公民館に対するご要望や、ご意見をお聞きして、名実ともに地域に根ざした公民館になるようにという目的でアンケート調査を実施いたしました。その中で、他の地域と比べ、特に目をひくものとして、ボランティア活動への知識・技能を身につけたいという意向の方が多くあったということでございます。このことは、福祉への関心が一段と高いということであり、ここにもコ推進十年の歩みの成果を垣間見ることが出来ます。

このような「まち」の公民館に勤務させていただいていることを本当に嬉しく、また、感謝いたしているところでございます。

五年前のことですが、ある公民館だよりに寄稿させていただいたことがございます。それに、「ことばと顔は心の鏡」ということで書かせていただきました。その中で、教員になって最初の学校の校長室に掲げられていた扁額、「和顔愛語」今もなお私の心に深く残っており、そのことについて書



いたのでございます。

これは、ご承知のとおり、道元禪師の語からとった言葉でございます。和やかな顔から愛情あることばが生み出され、和やかな心から和顔が生まれると解しています。美顔術では、「和顔」をつくりだすことはできません。形は変わ



去る四月一日私達の町も、新生廿日市市として誕生しました。じとせんひろばも回を重ねて三十回目の発行となりました。今まで地域の皆さんよりいろいろと投稿を頂きあらためて御礼を申し上げます。今後もしきつぎ皆様声を反映し一層充実したものになりたいと思います。何分年三回の発行ですが、出来るだけ各方面にわたりコミュニティ活動の一環として御投稿下さる様御願ひ致します。



コミュニティづくりの進んだ地御前地区のみなさんの温かいご支援、ご協力をいただきます中で、生涯学習の場の拠点としての公民館活動のより一層の進展、充実をめざし努力して参りたいと存じます。よろしくお願ひいたします。

公民館長 長谷川 定美



昭和63年度

コ推協事業計画

住民相互の連帯を図り、心のふれあう明るい住みよい共同社会の建設を目ざしながら、生きがいを創造し、うるおいと活力ある地域づくりを推進する。地域住民が古くからある郷土愛と奉仕の精神をふくんで、各種団体との連帯を密にしながら新しいコミュニティづくりを推進する。

広報部☆☆☆

じごぜんひろばを発行しコミュニティ活動を広く紹介する。変り行く地域を紹介し、歴史のページにしたい。現在の提言及びコ推協活動の啓発。

体育部☆☆☆

地域住民の体力づくりを盛りあげるとともに、ふれあいの輪を広げる地区運動会を開催し子どもから高齢者まで一同に会し、体力増進と仲間づくりの場とする。

文化部☆☆☆

祝市制記念演芸の旗なびく

文化部 増村 春男

九十三才の高令で、「エイヤ」の掛声で、すばらしい手品の手さばきで、会場の皆様が唖然とされ、大変な拍手喝采で演芸大会を盛りあげて下さいました。浜の町の吉本清一様をおたずねし芸にまつわる話や、前口上で始まる手品を見せて頂き、芸の深さを学びました。

前口上「私は上方に置きまして、日本一の奇術の先生天勝嬢につきまして、長年修業致した者で御座居ます。御縁が有りまして、御当地に参り、皆様方のごひいきにあずかりましてごく健康に暮しており、この段深く感謝しております。付きましては、本日はお客様がお出に成りましたので、茶碗の使い方をごらんにいれます。長口上は道のさまたげと」口上の一節を聞きました。

吉本様はアメリカ帰りの手品の上手な人に二十五才頃より習い、得意な芸は二十本の針を一本ずつ口の中に入れ、尺八を吹いた後、糸の通った針を口から出す、大変危険な手品をしていらっしやう

御陵衣祭、管弦祭、秋祭りの諸行事、盆踊り、どんと祭等、古くから伝わる文化的な諸行事を再現し、盛りあげ、子ども達のふるさとづくりと併せて仲間づくりとふれあいの場をつくる。

福祉部☆☆☆

高齢者及び福祉施設への支援活動を行う中で、将来に夢と希望をもち、生きがいのある人生を送るための活動を推進する。

生活部☆☆☆

地域住民の積極的な奉仕活動により、よりよい環境づくりを進め、快適な地域づくりを推進する。

また、公民館永福学級の諸活動を支援し、住みよい町づくりをめざし、ボランティア活動の輪を広げる。

青少年部☆☆☆

青少年の健全育成活動を推進する。地域社会の中で青少年を取りまく社会環境の浄化を図り、特に夏休み中における非行防止の気運をより上げるための啓発活動を実施する。



御声援を戴き幸わせですと御礼申され、芸をする人は芸を見て戴くお客様を大切にされ、更に義理人情の深さを感じました。今のうちに自分の出演が終わった人、人の芸を見ずに帰られるマナーの悪い人、自分さえ良ければと云

新町内会の紹介

本年4月1日付をもって新しく後東町内会が発足しました。戸数二五世帯で町内会長は米沢猛さんです。

昭和62年度地御前地区コ推協収支決算書

| 収入の部   |         | 支出の部  |         |
|--------|---------|-------|---------|
| 項目     | 収入額     | 項目    | 支出額     |
| 会費     | 181,800 | 会議費   | 9,840   |
| 助成金    | 160,000 | 事務費   | 9,180   |
| 諸収入    | 30,000  | 地域活動費 | 16,000  |
| (一般寄付) |         | 雑費    | 16,940  |
| 預金利子   | 531     | 費報化   | 75,000  |
| 繰越金    | 206,941 | 青少年活  | 154,613 |
| 収入合計   | 579,272 | 予備費   | 23,900  |
|        |         | 予備費   | 20,113  |
|        |         | 支出合計  | 1,000   |
|        |         | 収入合計  | 462,629 |
|        |         | 支出合計  | 579,272 |
|        |         | 差引残高  | 116,643 |

昭和63年度地御前地区コ推協収支予算書

| 収入の部 |         | 支出の部  |         |
|------|---------|-------|---------|
| 項目   | 予算額     | 項目    | 予算額     |
| 会費   | 182,000 | 会議費   | 10,000  |
| 助成金  | 160,000 | 事務費   | 10,000  |
| 諸収入  | 1,500   | 地域活動費 | 10,000  |
| 繰越金  | 116,643 | 雑費    | 17,000  |
| 収入合計 | 460,143 | 広報費   | 90,000  |
|      |         | 文化    | 50,000  |
|      |         | 福祉    | 80,000  |
|      |         | 体育    | 150,000 |
|      |         | 生活    | 25,000  |
|      |         | 青少年   | 15,000  |

| 収入の部 |         | 支出の部  |         |
|------|---------|-------|---------|
| 項目   | 予算額     | 項目    | 予算額     |
| 会費   | 182,000 | 会議費   | 10,000  |
| 助成金  | 160,000 | 事務費   | 10,000  |
| 諸収入  | 1,500   | 地域活動費 | 10,000  |
| 繰越金  | 116,643 | 雑費    | 17,000  |
| 収入合計 | 460,143 | 広報費   | 90,000  |
|      |         | 文化    | 50,000  |
|      |         | 福祉    | 80,000  |
|      |         | 体育    | 150,000 |
|      |         | 生活    | 25,000  |
|      |         | 青少年   | 15,000  |

積極性を養おう

第十六回身障者スポーツ大会

う人が多い時代、人とのふれあいを大切にして、コミュニティづくりを進めたいものです。

「相互の交流と体力の向上をはかり、明朗で積極的な性格と協調精神を養う」ため

大竹市、廿日市市、佐伯郡、

能美地区の身体障害者福祉協会、六月五日(日)大竹市立小方中学校グラウンドで、第十六回広島県西部地区身体障害者スポーツ大会を開いた。

小方中学校生徒のブラスバンド演奏で幕を開け。

昨年優勝の佐伯町の優勝旗返還に続いて清水昇大会会長が

「競技を通じて親ほくを深める」競技には廿日市市、大竹市、

佐伯郡内の各市町村から二百人が参加。

槍投げには堂本保、廿日市市身体障害者福祉協会会長が優勝した。

男子砲丸投げ、私が地御前地区身体障害者としてながんで一必ず一位になると大きな声を



出した、それは昭和三十三年五月三〇日広島市立観音中学校、十回男子砲丸投第一位になりました。その時の気合いを入れて投げた。

優勝した時に、胸をはって地御前に気持ちよく帰る事が出きると思いました。嬉しかった。

私が身体障害者として手帳を受取ったのは、昭和五十六年十一月六日、世界一〇ヶ国で愛用さ

れている、西ドイツのシメンス補聴器「高度難聴高性能」

皆様が障害、見えないと言われますが、人一ぱい毎日の生活に苦し

く思う毎日ですが、明るく元気に強く生きて行きます。

地御前県営住宅町内会 町会長 高橋宣昭



## 始めての出会い 大切にしよう

油木 徹

新学期から三ヶ月。小学校では新学級も落ち着き、授業参観の季節だ。たし算やかけ算、新しい漢字を、繰り返し、身につくまで根気よく教える。教師は忍耐力のいる仕事だと思う。教師をしていて一番大変なことはなんだろう。中学校で英語を教える先生に聞いたことがある「生徒とのかかわりですね。前年と同じ考え方、やり方では、通用しません」。自分自身の体験でもあるのだろう。その人は、しみじみとした口調で言っていた。「はたからみると先生というのは、毎年同じことをやっているのだから、気楽に見えるかもしれないですが、そうではないんです」とも言っていた。生徒は毎年新しい。今までの経験に頼っているだけでは、行き詰まる。これまでのやり方が通じず、悩んでいるベテランの教師も多いという。早口で良い授業をする人もいれば、ゆっくりとして、素晴らしい授業をする人もいる。叱りながらうま

い授業をする先生もいれば、全然叱らず、じっと立っているだけでリードする先生もいる。持ち味を出しながら、生徒との心の交流を深めていくことが決め手なのだろう。教育の現場と同様、人生もまた常に変化との対応だ。だから一回一回の出会いが新しいし、大切だ。「人」という漢字を分けければ「ノ」「ハ」。字画にも明らかな通り、互いに支え合う姿の中に、人間としての在り方が暗に示されているといえまいか。今日のコミニティ推進を支えてこられた諸先輩方々も人と人の新しい出会いを大切にして今日を築かれたと思う。私はそう言った諸先輩に感謝し、これから始めての出会いを大切に地域発展のために、一生懸命とりくんで参りますので、今後共ご指導を賜りますよう心からお願い申し上げます。

## 我が町の福祉

昭和52年地御前地区のコミュニティ発足後、町内会（吉本繁登会長）の会則に福祉の項目を追加し会費月50円を倍額し、新一年生、

成人、75才の老人にお祝い、子供会に助成する予算もできた。地域の福祉作りをめざそうとする心構でもある。役員会の初会合の時は担当の民生委員さんも出席をお願いするようになった。最近の福祉の一端を述べる。船村正一（91才）さんはひとり暮らしの老人、元気な時は民舞、盆踊りの講師をされるほど芸能が得意な方で、現在は原の清鈴園に入園中、町内会の餅つきの際は特別に餅をさしあげている。

今回（7月9日）慰問に行くことが総会で決った。吉本武町内会長はじめ有志、担当の民生委員、第一、二民舞のグループ、郷土文化保存会の方々が同行される。

浜之町の一老人のために多数のご協力、ご援助いただくこと誠に有難く感謝します。これもコ推協の成果ではないでしょうか。

元町内会長 S F 生

## 昭和62年度

### コ推協の主な事業報告

5・17 地御前地区コミュニティ推進協議会 発足一〇周年記

念地区町民運動会開催

6・1 御稜衣祭、やぶさめ神事

7・12 管弦祭

7・26 子ども工作教室



8・12 供養盆踊大会

9・15 敬老会と、ふれあいゲート

10・16 ボール大会

11・10 子ども達の集いどんと祭

12・7 一人暮らし老人招待昼食会

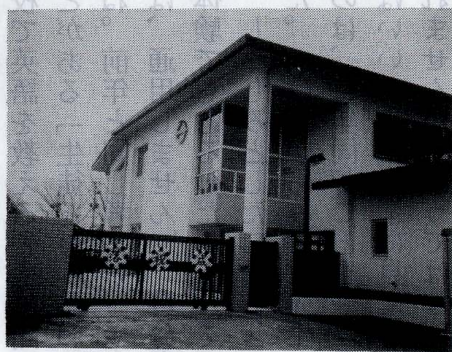
2・28 市の木桜植樹

3・27 ミステリーハイキング実施



## 地御前保育園 新園舎完成

昨年八月から改築中の地御前保育園が完成しました。工事中園児たちは、宮内、平良、串戸、阿品台東の各保育園にわかれて通園し七カ月ぶりに地御前保育園に帰っ



てきました。すこし戸惑いをみせながらも、友達とあえたうれしさで喜色満面。広くなった園庭に、テーブル、椅子をおき、落ち着いた中にも楽しい子ども達の生活空間が出来上りました。

新園舎は鉄筋コンクリート二階建て、一〇六七平方メートル、工事費二億一千八百三十万円、近代的な建物で、大切な幼児期をより快適に理想的な保育、生活ができるように、心豊かな環境を整える

ことを理念に取り組みました。可動間仕切りで、自由な空間を確保しました。(吉本環登会)

。備え付け収納設備も感覚を育てるような色彩を豊かにしました。外壁も基本色を白として、壁画や色彩にポイントを置きました。

。園舎の周囲に花壇を配置して外の生活とのつながりを工夫しました。

この新しい保育園で、地御前の園児達がより一層健やかに成長することを願うものです。

工事期間中は、ご近所の皆様には大変ご迷惑をおかけいたしました。が、おかげをもちまして無事完成いたしました。また、にぎやかな声が、ご近所にひびきわたります。今後共よろしくお願い申し上げます。今後共ともに工事期間中のご協力に深く感謝申し上げます。

地域の方も保育園をせいでご利用下さい、職員一同おまちしております。

### 追記

地御前保育園の新築落成を記念して、県営住宅町内会長高橋宣昭様から応接セットの御寄附を頂きました。玄関を入ったロビーに來客

用として使用させて頂きました紙上をかりまして御礼申し上げます。



### ご存知ですか

### 廃油の回収運動

婦人会が使用して古くなった天ぷら油の回収運動をしているのをご存知ですか。

東は金剛寺から西は包が浜・光岡・北は海晴・緑が丘、南は新港・港等をふくめて、二十数カ所へ「廃油回収地御前婦人会」と書いたポリ容器を、道路の傍や家の軒下にと置いております。灯油カンにして一年に百二十カン位回収しております。

地御前カキで有名な養殖の海を少しでも汚染から守り、廃油が粉せっけんや、肥料に変身するとあって、資源の再利用のためにもは

じめた事業です。

また合成洗剤より公害もなく、よごれもよくおちる集めた廃油から作られる粉せっけんを使う運動も合わせて行なっております。

二年前にはじまった急激な円高のため、業者による廃油の回収がひき合わなくなり、廃止寸前にまで追いこまれました。しかし七年前にこの運動をはじめた役員の人たちの苦勞を考えると、何とか継続させたいと思い、現在は回収のためのガソリン代を、公衆衛生推進協議会に負担してもらって続けております。

黒くよごれているポリ容器をみたら、古くなった油を下水に流したり、ゴミに出したりしないで、その容器へ入れて下さい。もちろん食用油以外のバイクから出た廃油や、ガソリン等は絶対に入れないで下さい。異物が少しでも混入されると、その容器全部の油が使い物にならなくなり、その処置が大変な事になります。

身のまわりのささやかな運動でも参加者が多くなれば、それだけ住み良い町づくりにつながるのだと確信し、婦人会はこれからがんばりたいと思います。(山崎)



# じとせんひろば



№. 31  
発行 平成元年1月31日  
地御前コミュニティ  
推進協議会

## 平成元年躍進めざすコミュニティ

謹んで新春のお喜びを申し上げます。  
皆様方、御家族と共に良い年をお迎えになったことと存じます。  
新年を迎え、昨年を振り返ってみますと、国内では、政治面においては税制に明け、税制に暮れた一年であり、経済面では円高にもかかわらず企業の懸命なる努力により好景気が持続され、なだらかな経済成長を遂げました。  
更に、科学、技術面では青函トンネルの開通、瀬戸大橋の開通など、我が国の国際的地位は一段と高まり、二十一世紀へ向けての画期的な一年でありました。  
本市におきましても、市民の方々が待望する市制を施行するなど本市の歴史の一ページに記される大変革の一年でありました。  
これも偏に市民の皆様方のご理解、ご協力の賜物であると深く感謝いたしております。  
また市制後、初の市長選挙にお

### 年頭にあたり コ推協の皆様へ

廿日市市長 半明 英夫



きましては、皆様方の力強いご支援とご厚情によりまして、当選の栄に浴し、引続き市政をになうことになりました。  
もとより微力ではございますが、私の政治信条といたします「心の通う行政」のもと、新たな決意と情熱をもって「新生廿日市市」発展のため、こん身の努力を傾注する所存であります。  
何卒、ご支援、ご協力の程、よろしくお願い申し上げます。  
さて本年は、明治二十二年市制町村制が発足して以来百年目を迎えます。  
また、竹下内閣が提唱する「ふるさと創生」「地方の時代」が再びクローズアップされております。  
本市におきましても、市民の方々の行政への参画を頂きながら、本格的な都市圏の具現化のもと、地方自治発展に努めて参る覚悟でございます。  
しかしながら、二十一世紀に向

け、国際化、情報化、高速交通化、高齢化は急速なテンポで進んでおります。  
このような中、複雑・多様化する行政ニーズに対応する豊かさや質の高い都市づくりプランの実行は、独り行政で成し得ることはできません。  
そこに住み、働き、憩う市民の皆様方の新たな発想とエネルギーが不可欠であります。  
すなわち、文化向上と住み良さを求める都市づくりの鍵は、地域のコミュニティづくりにかかっているのではないかと考えます。  
地御前コミュニティ協議会におかれましては、市民憲章に謳われております「心のふれ合い」「自立 自助」の精神のもと十年余の長きにわたって、本市発展のためご尽力を頂いております。  
このことに對し、深く敬意と感謝を申し上げる次第であります。  
年頭にあたり、地御前コミュニティ協議会の更なる発展と皆様方のご健勝を祈念いたしますとともに、暖かいご厚情に對し衷心より御礼申し上げます、新年のごあいさつといたします。

ものです。地御前ではコ推協の主催で毎年開催されており参加の要請もありましたが、距離的な面で参加者も少なくコ推協の了解もあり、今年には金剛寺西町内会も一緒にとの申出により両町内会で昨年同様坂井様のたんばをお借りして去年以上の立派なとんどを作りました。両町内会役員をはじめ皆様方の御協力を感謝致します。町内より多数の御参加を頂き盛大なとんど祭となりました。来年はもっと大きなとんどを作り盛大に行う様皆様の御意見を頂きました。大変嬉しく思っております。皆様方の御協力重ねてお礼申し上げます。

### 体育部だより

コ推協体育部は、町内会長、市体協、専門委、青年会、市体指の各分野で組織されています。目的は、スポーツ、レクリエーションを通じて体力づくり、健康増進に関することです。  
年間を通じての行事は計画案を立て、行っています。  
毎年五月第三日曜は地区運動会を行う事にしています。今年は市制記念事業と併せて行いましたが



雨のため体育館で盛大に行いました。  
初めて取り組みましたグラウンドゴルフもすべての面で未知のため、部会も数回もち実施の運びとなりました。その結果多数の方の参加をいただき盛大に終了し大変好評でした。部員一同感謝しております。思いもよらぬ人気があります。たグラウンドゴルフを三月頃実施の予定にしております。日時等決定しましたお知らせします。気軽に参加され一人でも多くの人と交流され良い汗を流していただき、ふれ合いの輪を拡げて行きたいと思っております。皆さんのご参加を部員一同お待ちしております。

### 随想

#### 無償と有償

大前 恵兵衛

私共が生きてゆくために必要なものに無償と有償のものがある。一瞬たりとも呼吸をとめない限り吸いつづける空気そのものは無償であり、天候に関係なくいたっている太陽の熱と光線これも無償、次に必要な水は昔は無償であったが現在上水道の恩恵にあづかっているものは有償となつて居り、生活帯の違つたところでは無償の水を使つている所もある筈。上記の様に私共の生活に欠くことの出来ないものは総て無償であり、上記以外の住居、衣料、主食副食、装身具等は高低の差こそあれ総て有償、これを簡単な言葉で表わせば生きてゆくために絶対欠かせないものは「ただ」でその他のものは全部金があるという皮肉な現実を私はいつも考えて居ります。  
さてその空気に対してどれほどの関心と感謝をいだいているか、汚さぬ様、混らせぬ様につとめているか、太陽の光と熱をどれだけ有効にいたっているか、水につ

いても金を払つとるからと無駄使いし、水不足にならぬ様にと努めているか。米粒程の宝石に数万円を払う前にその金をもつと世のためになる使い方を考えたいものと思ひます。私にはそんな余裕などありませんけれど、これもとしよりのたわごととして聞いて下されば幸いです。

### 編集後記

大行天皇の御崩御により新しい年号平成の時代を迎えました。じとせん広場も回を重ね三十一号を皆様に御届けします。昨年は四月に市制が施行されました。コミュニティの活動も益々重要な課題となつて来ます。明るいまち造りのため地域の住民とごつてコミュニティの意義を再認識して住みよい郷土造りに御協力下さる事を願ひます。  
次号は五月下旬発行の予定です。皆さんのご投稿をお待ちしています。原稿用紙は公民館に用意しております。お申し出下さい。





# ボランティア活動

コ推協会長

伏本 節夫

ボランティア活動の「ボランティア」という言葉の語源は「自由意志」という意味のラテン語で、これが英語となり「志願」や「自発性」としてつかわれるようになった。

ボランティア活動とは、誰もがもっている「善意」を「行動」にあらわしたものだ。その活動の特色は、

自発的な行為である（自発性）  
社会のためになる（社会性）  
報酬を期待しない（無償性）  
人と人のかかわり（連帯性）  
コミュニティを推進するためにこの精神を活用したい。

コ推協には広報・文化・体育・福祉・生活・青少年の六部がありそれぞれの部又は連合して「心のふれあい」や「相互扶助」の目標を達成するように諸行事を行っている。

地域をよくするために各自ボランティアの精神が是非必要である。ボランティア活動は各自の能力（時

間的、能力的、経済的等）に応じてすべきで、期待が大きすぎてはならないと思う。個々でするよりグループで活動する方がより効果が多い。

六部のどれかに入部されて、地域の連帯性を高めてもらいたい。

## なぜか今

### とんでる婦人会

第二次大戦中の大政翼賛の国防婦人会のようなものだ、いささかアナクロ的な認識不足の人や、あれはオパン達の集まりだと横目で見る人など、様々の声を耳にしなから、それでも地域の中へ深く根を下ろし、昨年で婦人会結成四十周年を迎えました。

中学生からみれば三十代はオパンだし、二十代からみれば四十代はオパンです。小学校のP・T・Aの行事と、婦人会の行事が重なって悲鳴をあげる程、若いお母さん達も沢山参加しています。

役員がまわってくると、それが嫌で退会していく人もいますが、出番の少ない組織では魅力がないわけで、役員の交替の時には多くの人から、楽しかったとの感想が

出るのも、誰でも人は、人と人とのつながりを求め、その中に楽しみをみつけるのだと思います。年間の行事は両手を二回ひらいても数えきれないほどありますが、今、婦人会でもっとも力を入れているのは、公民館や、公衆衛生推進協議会・コミュニティ推進協議会など、他団体との協力の下で、成人病予防のための食事づくりや高齢者との交流、廃油回収を中心としたきれいな環境づくり、それに会員相互の研修・親睦等です。

婦人会主催のグランドゴルフ大会などは、一度参加するとほとんどの人が、やみつきになったとの声が出るほどです。より多くの方たちに加わって、冬の日だまりのような地域づくりの推進に、ささやかでもお役に立ちたいものです。年間会費三百円です。ご参加をお待ちしています。（山崎）

## 公民館の恩恵に感謝

公民館は市民の教養・文化の向上を目的に、趣味や娯楽を通じ交

## 「推協」の活動に望む

中山 薫

激動の時代「昭和」は終り、平成の時代へと時はうつりました。大行天皇の崩御は昭和の時代を生きたものの一人として、最も悲しむべきことであり衷心より哀悼の意を表したいと思います。

これまでの世代をあらわす言葉である「明治、大正、昭和の三代にわたり」というのも、これからは「四代にわたり」という言葉に変って使われるようになるのではないのでしょうか。去る一月八日の夜、NHKの番組で「昭和の回顧」というタイトルで放映されました。みなさんも御覧になった方も多いと思います。その中で草柳大蔵氏に表現した興味深い話がありました。それは「明治は志」「大正は文化」「昭和は経済」「平成は政治」の時代であるということです。味わいのある時代表現だと思います。

新元号は「国の内外、天地に平和が達成される」との意味が込められた、といわれます。地御前コ

## 所感

井上 喜良

年々歳々花相似たり

歳々年々 人同じからず

という古詩の一節があります。私たちの生かされているこの大自然は、その運行の法則に従って狂いもなく回転しています。私たち人間を含めて、この大自然の中で生まれ、育ち、生き、死んでいくすべての生物はこの自然にさからうことはできません。

転じた話になりますが地御前の環境を考えますとき、前に瀬戸内海の陽光に浮かぶ名産カキ養殖の筏を眺め、先達を想起し、南には日本三景の一つ、緑豊かな自然と海上に浮かぶように立つ朱塗りの大鳥居を望み、背にはのうが高原や呉民憩の森、縦の原生林に囲まれた極楽寺を仰ぐ風光明媚、温暖な地でありますことは幸せと思うものです。

地方自治体として村町そして昨年四月一日市制が施行され、二年目を迎えました。将来へ幾多の課題が山積していますが、子々孫々に向けての、福祉の向上と健康で文化のある住み良い市の実現をめざす時代だと思います。

地御前コミュニティの現況は各団体、地区民の熱意で活気があります。前途は年毎に立ち向かわなければならぬ活動が多くありますが、地区民が協力してより良いまちづくりに推進していることを喜ぶものであります。

年々歳々花は相似ていますが人そして社会は次々と変っていきます。同じ変わるならこの私達の住み良い方向に変わって行くよう努力したいと念願するものであります。

## 金剛寺地区「トンド」祭

金剛寺東町内会長

花田 重之

トンド祭は昔から村の行事として行われていました。金剛寺地区も一部有志の方により行なわれていましたが、昨年より町内会協賛のもとに行なう事になりました。

トンド祭は無病息災と子供達の立派な成長を願い、町内の人が集り、お互いに話し語り合って親睦をはかり一つの輪を作り連帯のきづなを深めて町内会の発展を願う



流を深め、生涯教育を育てる場所と思います。数多くの教室でテーマ毎に熱心に先生の指導のもとに、各自の思いに満足出来、いまさら平和の尊さを感じています。

又グループ間の交流は現在の世相から失われたものを取り戻しているうるわしい心境に對し同慶にたえません。コ推協のお陰で年令職業、性別、主義、主張等の相異点を越えた成果だと思っています。

私も六十年前の青春時代に油絵を習いたいと思い立ちました。が当時は広島まで行かねばならず中々習う事は出来ませんでした。心ならずも諦める外はありません。それに今日では公民館活動のおかげで実現させて頂き有難い事です。年一回の学習発表会で皆さんの上達に驚きを感じます。巾広い活動により今後の成果が楽しみです。

多くの皆さんに愛される公民館も丸字山の跡地に再建されるとの話ですが大いに歓迎するところで。環境、交通の面等を考えると最適で利用者から言えば理想的な場所と思います。一日も早い建設をのぞみ、市民福祉の向上に寄与されることを念願してやみません。（一市民の声）



# ハッ面(ヤツモテ)神社

渡 辺 通

地御前地区で昔からの北の出入口、ハッ面という谷合に此の社は有る。天孫系の速谷神社や厳島神社が鎮座する以前の、出雲政權時代の伝統を有する古社である。

日本書紀(七二〇)等の古書に依ると、奈良時代以前には此の地方一帯は可愛(エノ)と称したらしく、此処にも素盞鳴(スサノオ)尊の八岐大蛇(ヤマタノオロチ)退治の伝説があると記されている。尤も他に高田郡可愛川、安佐郡根谷川、山県郡加計の可愛淵などという説も伝えている。

当地方の伝説を具体的に記すと、往古、原地区の北方の高山(標高六六一m)の頂上の大池に大蛇が棲み人畜に加害するので、素盞鳴尊が之を逐い出し、平良川下流の可愛窪(今の可愛)に至り、之を斬り殺した。その時、頭が空中を飛んでハッ面谷の南入口に在った大沼(沙田)に落ちたので、此処に祭ったのが本社の起原だとしている。又、極楽寺山の古名「さあ

のを」、廿日市の天神山の古名「篠尾」、平良・宮内間の峠名「さあのを」等は皆、尊の名に因ると言う。又、ハッ面とは大蛇の八個又は多数の首(頭)という意味であり、地御前に一首だけでは可笑しいが、他処にも飛んだのかも知れず、そこが伝説である。

ハッ面社は、江戸時代にはハッ面山の中腹(標高約二〇〇m)に東面してあり、北の山裾には湧水池を控え、東の山裾には、地御前の地質としては珍らしく、粗花崗岩の岩盤があった模様(今は痕跡のみ)で、神社鎮座の古い形態を示していた。社地、社殿は明治五年(一八七二)に北の山裾に降ろされ、現在の社殿は昭和十年の再建である。

祭神は古来、水神としての八岐大蛇とされていたが、昭和二十一年六月、神社規則届出の折、素盞鳴尊に改められた。進駐軍の迷惑に配慮したものである。二十四年には社地の払下げも受けた。この神社に関しては、次の通り不思議な事実がある。その一は、東北方、出雲国境の赤名峠から地御前迄の古い道筋(直線で約一〇三km)には、最短で一

## 第三回地御前地区

### グランドゴルフ大会

日時 七月十六日(日)

八時十五分集合

八時三十分開会式

場所 地小グランド

雨天中止

対象者 子供から大人

男女とわず

申込方法 五・六人でチームを組んで申し込んで下さい

申込間 地御前公民館

合せ場所 四三六・二二六(〇)

七月十日までに申し込んで下さい。十五チームになりましたら締め切ります。

当日は色々賞品を用意しております。

## 編集後記

じごぜんひろはNo.32をおとどけます。No.33は明年一月の発行の予定にして居ります。明るい地域づくりのため、ふれあいの場をひろげて行くと、皆さんの御投稿がコミュニティの推進力となる事と思います。ふるって御投稿下さいます様お待ちしております。投稿用紙は公民館に備え付けてあります。

広 報

No.32-H01

## あいさつから心からふれあう場が出来る

コ推進協会長 伏 本 節 夫

私達は暮の中で大なり小なり地域社会に迷惑をかけている。自分の能力(時間的・技術的・体力的・経済的等)に応じて奉仕できるような工夫し、努力すべきである。

幸に当地区では町内会を母体に各種団体の代表、学識経験者(専門委員)で組織されている、コミュニティがある。六専門部の諸行事を通じて、心のふれあう明るく住みよい地域をめざしている。

廿日市市からは太田阿品台連合会長が『ふるさとづくり』の現状を行政主導によらない住民自身の手による町づくりの発表があった。吉本町内連合会長より六専門部の活動の一端を発表された。

来るべき21世紀のまちづくりを目指し、相互の連絡調整、コミュニティづくりの醸成を図りながら、福祉の増進、環境の整備を行い、のぞましいふるさとづくりへと期待を持つ。

旧地御前村地区は町村合併当時より二倍以上人口が増加している。

新旧住民が協力して新しい町づくりに励んでいる。

私達は平素、公民館のクラブ・PTA・町内会・婦人会・老人クラブ等の諸活動を通じて人を知り挨拶が始まる。挨拶を出発点にして、心のふれあう場ができる。人と人とのかわりあいを高め、生きがいを創造することを基本としている。お互いに助けあいましう、生ある限り。

## 廿日市市人口調

昭和31年9月 五ヶ町村合併

一九、二一一人

昭和32年6月 佐方合併

二〇、七〇四人

昭和63年4月 市制施行

五六、六一八人

平成元年6月一日

六〇、二八九人

## 地御前人口調

昭和31年9月 五ヶ町村合併前

四、四二〇人

平成元年6月一日

二〇、七七六人

内訳 地御前 六、六八四人

阿品 二、五三二人

阿品台一、五六〇人

# じごぜんひろは



発行 平成元.7. 5  
地御前コミュニティ  
推進協議会

## わが郷土 あなたと私が 主役です



地御前地区運動会チャガールの競演



平成元年度町内会長決まる

旭町 ○其阿弥 寛

扇町 ○島本勝次郎

敬称略

平成元年度☆☆☆  
コ推協各部年間計画

広報部☆☆☆

・平成元年七月  
じごぜんひろばNo.32発行

・平成二年三月  
じごぜんひろばNo.33発行

体育部☆☆☆

・平成元年五月二一日(日)  
地区運動会 実施済み

・平成元年七月二六日(日)  
グランドゴルフ

・平成元年十一月  
ハイキング

・平成二年三月  
グランドゴルフ

文化部☆☆☆

・平成元年六月八日(木)  
御陵衣祭やおさめ神事

・平成元年七月二七日(日)  
管絃祭前の洲掘神事

・平成元年七月一九日(水)  
管絃祭

・平成元年七月二二日(土)  
海と島博覧会出場



○印新就任 九名

|       |        |
|-------|--------|
| 県営住宅  | 高橋 宜昭  |
| 港 町   | 小方 昌之  |
| 金剛寺東  | 花田 重之  |
| 金剛寺西  | ○用品 清  |
| 要 町   | 田村 武之  |
| 浜之町   | 吉本 武   |
| 胡 町   | ○坂井 博二 |
| 後 町   | 川本 通   |
| 後東町   | 国方 整   |
| 地之町   | 藤本 唯俊  |
| 中之町   | ○瀬川 勝  |
| 堀之町   | 中谷 満   |
| 堀中町   | 増村 春男  |
| 堀新町   | ○柳川 練  |
| 鹿之子町  | 中川 秀雄  |
| 南 町   | 松本 武   |
| 新 港   | 谷口 勇   |
| 田屋町   | 井上 喜良  |
| 砂 島   | ○加美田 昇 |
| 野 坂   | 半田 忠信  |
| 野坂住宅  | ○角野 好男 |
| 緑ヶ丘   | ○井原 政春 |
| 三景園   | 石川 孝幸  |
| 海晴ヶ丘  | 世田 正男  |
| 二六町内会 |        |

平成元年度 コ推協収支予算書

| 収入の部 (単位円) |         |              |
|------------|---------|--------------|
| 項目         | 予算額     | 明 説          |
| 会費         | 186,000 | 100円×1,860世帯 |
| 助成金        | 160,000 | 市より助成金       |
| 諸収入        | 10,500  | 寄付、利息        |
| 繰越金        | 56,198  | 前年度繰越金       |
| 収入合計       | 412,698 |              |

| 支出の部 (単位円) |         |                                                                                          |
|------------|---------|------------------------------------------------------------------------------------------|
| 項目         | 予算額     | 明 説                                                                                      |
| 運営費        | 40,000  | 会議費 5,000<br>事務費 3,000<br>地域活動費 12,000<br>雑費 20,000                                      |
| 事業費        | 370,000 | 広報部費 90,000<br>文化 " 40,000<br>福祉 " 70,000<br>体育 " 140,000<br>生活 " 20,000<br>青少年 " 10,000 |
| 予備費        | 2,698   |                                                                                          |
| 支出合計       | 412,698 |                                                                                          |

平成元年度 コ推協収支決算書

| 収入の部 (単位円) |         |              |
|------------|---------|--------------|
| 項目         | 予算額     | 明 説          |
| 会費         | 185,300 | 100円×1,853世帯 |
| 助成金        | 160,000 | 市民課より        |
| 諸収入        | 12,256  | 寄付、利子        |
| 繰越金        | 116,643 |              |
| 収入合計       | 477,199 |              |

| 支出の部 (単位円) |         |                                                                                          |
|------------|---------|------------------------------------------------------------------------------------------|
| 項目         | 予算額     | 明 説                                                                                      |
| 運営費        | 39,410  | 会議費 4,290<br>事務費 3,060<br>地域活動費 12,000<br>雑費 20,060                                      |
| 事業費        | 381,591 | 広報部費 75,000<br>文化 " 47,000<br>福祉 " 70,795<br>体育 " 149,638<br>生活 " 24,350<br>青少年 " 14,808 |
| 予備費        | 0       |                                                                                          |
| 支出合計       | 421,001 |                                                                                          |
| 収入合計       | 477,199 |                                                                                          |
| 支出合計       | 421,001 |                                                                                          |
| 差引残高       | 56,198  | 平成元年度へ繰越                                                                                 |

福祉のネットワーク

ネットワーク

福祉部(宮本)

広島県社会福祉協議会は、これからの地域社会に於て、在宅援護者とその家族への援護活動を更に適切かつ具体的に充実推進する目的を以て、その個々の生活環境に即した援護諸機能の統合と、福祉サービスの体系化を進める事業として、県下市町村社会福祉協議会に対し、『福祉のネットワークづくり協議会』の設置を提唱致しました。

当廿日市市は、此の事業の指定を受け、去る二月末『廿日市市福祉のネットワークづくり協議会』を組織し、三月十日よりその活動をはじめて居ります。その組織の概要は、関係行政機関をはじめ、各地区民協代表、婦人会、老人会、青年会、町内会、医師会、小中学校長代表等々、広範囲な団体代表を以て組織し、その相互の綿密な連繋協力を得て従来より更に濃密かつ適切な援護活動を実施せんとするものであり、又『住みよい町



づくり』のために行政活動や専門家活動と共に、地域住民がお互いに声をかけ合い、助け合い、そして福祉環境を整えてゆく住民参加の町づくり活動への大きな一環ともなることを期待して居ります。

幸に、当地御前地区は当初県指定のコミュニティ推進協議会として前述の事業と趣旨目的を全く同じくし、しかも過去十年の貴重な経歴を有し、各町内会を主体とし各層及び主要団体との連繋協調を深めつつそれぞれの実績をあげていることは、関係行政機関からかなりの評価を得ているものと思われます。

そして今や愈々高齢化社会に向いつつある現在、自分や自分の家族の一員が高齢期を迎え、一人暮らしや老夫婦だけの暮らしや、更に疾病や障害を持っているような場合でも、その地域での自立生活が可能となるような、そんな『福祉の町づくり』をめざして努力致し度いものであります。

端午の節句によせて

大正七年六月十三日午後兄弟の中で一番大きく丸々とふとった男の子がおぎゃあと生れた。日曆五月五日のこと、地御前では端午の節句で流鏑馬の神事があり、馬のとぶ前であった。親よりも厳固一徹の祖父の方が大変な喜び様であったとか。この子こそ誰であろう何んの役にたたない私だった。

馬年生まれの馬面で馬を見るのは大好きだが馬はこわかった。生長して、気ままでいじわるの内弁慶な小柄でしたが、第一補充兵として広島◎部隊として中国に出征した。

後に藤部隊となり、各地を転戦して、槍、専部隊として中支那は大体回った。徐州に居た頃濱注炭礦警備隊に属し更に二里前方の分哨に配された。或る日警備隊に連絡のため支那馬で行く事になったが馬に乗った事がないまして敵中であるが、ままと決心して馬上の人となった。一里程何事もなく、中程に部落があり様子を見るためとまったところ馬が



も友好親善都市として平和の灯をとまさんと交友を温めています。中国側の希望で「中国と友好の輪を広げる会」は日本の医療機器を贈る運動をして居ります。今回少しですが、医療機器を宜昌市に向け送りました。私も貧者の一灯として協力させて頂きました。

今平和な世の中になり、端午の節句が来る度に馬面をさげ馬とばしを見に行く今頃です。

田村 武之



# 地御前に於ける神社廃絶の例

(その一) 渡辺 通

栄枯盛衰は世の習いとか、地御前に於ても地名だけ名の残る神社がある、氏の面社と胡子社とである。

廃、氏の面「うじのめん」社「氏の面」という小地名は、大神谷の中流からや、上手に在り、寛永十五年「一六三八」の地誌帖「地検帖」には、田三反七畝九歩畑一反二畝一二歩、農業収穫は田畑合計で四石五斗四升九合であるとされていた。又明治六年「一八七八」頃、明治新政府は新施策の財源に充てるため、この神社跡地二五坪という零細地を僅か数銭で払下げたという庄屋文書を見たことがある。

いつ頃氏の面社ができたか、大正七年の佐伯郡誌宮内村の旧記には、中世の地御前は、大人村「うしむら」として宮内村から分村したが、地御前ではこの事実を知らないとしている。この大人村が「氏の面」と同一の事実を異字で記したものである。しからば「大人」とは何を指すのか、広島市の北辺

に「牛田村」があったが、同村の沿革誌に依れば、同村は、神田神社の開いた「神田」という地区と、官吏の主、「うしめし」の開いた「牛田」という地区とから成立している由である。

これより推測して、地御前を開いた「大人」「うし」とは誰のことか仁治三年「一二四二」以前から江田島で小公文「地方官職名」をしていた紀為宗であると推測されている。厳島の古文書には、仁治三年二月に安摩荘衣江に同じ田島莊官より宮内に在った宮島預所「政所とも云う」宛に出した牒文があり、それは前記の紀為宗が兼ねて宮内の住人、俊士の次郎三郎兄弟に金子を貸していたが数年後に用人に返還請求に赴かしたが許さず殺害された云々と訴えている。又記憶に依れば、大神川の川裾「即ち毘沙門堂の前面」で流砂地を堀割って汐田の方へ放水し「地御前神社の附属施設、現在の小学校への被害を防いだ」とされている。このため今も附近を堀の町と云い

ます。「氏の面」とは氏「官吏役人」の作った面の免許地の当て字という意味である。

その後天下は南北朝の争乱時代「一二三二」一三九二に突入し、厳島神社は南朝方に味方し、武力に弱いので神官達は一時地御前に移動し、新設の見上寺「献上寺」「賢乗寺」とも書くの周辺に住んだ。野坂、林、大神、笛の面、小調子などの地名はこの事実を証する新しいものである。又全国より集った南朝方の僧侶達は宮内の方に住み、泰蘭寺などの僧坊名を残した。扱江田島の庄官達は北朝方だったので、防衛力の関係で地御前の新開拓地区から退去した訳である。最初の開拓者たちは心の拠りどころとして「氏の面社」を設けていたが退去後もこの神社の附属の社有地は残った。其の後約二七〇年を経て福島正則が芸備の太守となり、その政策として社領は没収された。神社も衰退し祭神名も不明に帰した。文化七年「一八一〇」の村方萬指出帖では遂に附近の田に蛭「ひる」が多く之を除くため蛭を祭り始めたものとする俗説を掲げるに至った。当時の祭日

は九月十三日と記されており宛に角祭礼が行われていたものと推測される。明治六年頃には社殿は無く社地も処分されたことは前述の通り 参考「大人」という文字のつく地名「旧玖波村の奥の谷を」「大人原」「だいじんばら」と云う谷川に相当の間隔で巨大な畎「凹穴」が連なるので巨人の足跡であるとの伝説が生じたものである。又「旧玖波村中部に」「大人」「おせ」と云う地名がある「文政二年の書出帖」これは谷川即ち小瀬「おせ」に同音の大人を当字したものである。

## 編集後記

地御前地区も今年急速な変ぼうをして来ました。野坂中学校の開校、丸子山造成地に七階建のマンションが出来、其に伴って人口の流れも変わって来ます。コ推協の役割も一段と重要となってきました。連帯の輪をひろげ明るいまちづくりに努力して行かなければなりません。年間に三回程度の発行ですが「じごぜんひろば」をより充実したものになければなりません。皆さんの御協力をお願い致します。 広報部

## 喜んで奉仕 環境ひろば

廿日市市消防署内に消防団の組織がある。団員は定期的に訓練を重ね非常の際に役立つよう研修をしている。要町の北川徳夫さんはその副団長である。

予算、勤務時間等の関係で待遇面で劣る。社会奉仕者として精進できるのは、家庭のご理解、ご協力を得ることが絶対的条件である。市内で25名の理事による消防団の後援会の組織をつくり、地御前では中川辰巳さん、井上喜良さん伏本の3名の理事で、趣旨にご賛同された事業所から後援会費を集め、昨年は宮島で家族慰安会を催し、郷土資料館・水族館等を見学したり、もみじ谷で昼食会を開催。消防団員の方が喜んで勤務されるよう家庭の皆様へのお願である。 コミュニティの活動はボランティア(奉仕)である。町内会長をはじめ各種団体長及び専門委員で構成され、助けあうまちづくりを目標に、人と人との心のふれあいを進めるような諸行事を行なっている。



ひとり暮らし老人昼食会

が実施された。昔なつかしい歌謡曲をアコデオンやハーモニカの伴奏によって歌ったり、手品の指導を受けたり、くつろぎの1コマでした。

病弱のため出席できない36名のお宅に弁当・汁を運搬された方の話では、いつくるか待っておられた話、よかったなあと思ひの顔。

ボランティア活動には限度がある個人の能力・技能・体力・時間等個々の人に応じて社会奉仕すべきであると思う。無理なお願はすべきでない。各人の創意工夫によって組織的に行動すべきである。相手の立場を考えて、善意の押し売りであってはならない。

人手不足の現在、地域社会に奉仕する人は次第にすくなくなってきた。いや人材の発掘がなされていらないのではないかと思う。広報・文化・体育・福祉・生活・青少年部の活動に参加できる方をご紹介してもらいたい。だれでもできる喜びのある奉仕活動。そうありたい環境作り、みんなのご理解、ご協力が必要である。

人と人との心のふれあいを大切にする、助けあうまちづくりになるよう、お互に努力を続けたい。

# じごぜんひろば



№. 33  
発行 平成 2. 3. 26  
地御前コミュニティ  
推進協議会

心のふれあいを大切に  
助けあうまちをつくります

No. 33 - H02



# 「推協各部の活動状況

## 平成元年後期

◎広報部  
じごぜんひろば発行「No.33」

### ◎文化部

- 6・8 御陵衣祭やぶさめ
- 7・17 管弦祭の洲堀り神事
- 7・22 海と島の博覧会出場
- 「郷土文化踊り」
- 8・15 盆踊り
- 8・27 子供達との古里づくり
- 「子供工作」
- 11・3 郷土歴史の散歩道ある
- こうや体育部と協賛
- 1・14 とんど

### ◎福祉部

- 9・15 敬老会
- 11・21 福祉団体「光の園聖ミカエル、くさのみ」慰問
- 一人暮らし老人と昼食会
- 「生活部」と

### ◎体育部

- 5・21 第十一回地御前地区運動会

### ◎生活部

- 7・16 グランドゴルフ大会
- 11・3 郷土歴史の散歩道ある
- こうや「文化部」と
- 3・4 グランドゴルフ大会

### ◎青少年部

- 7・19 管弦祭パトロール
- 10・7 氏神社祭パトロール



## 「ふれあいのなかから 住みよい町づくり

今日のようなばいはい競争社会の中である程度の競争は何事にも必要だと思ひます。しかし度過ぎた競争ばかりでは人に対する思いやりの心が、だんだんと薄れてしまひ、自分の事だけを考へ、自己主張が強くなり、人との和がなくなると思ひます。

すべての社会に協力する事で、住みよい町づくりが出来ると思ひます。  
次に地御前地区も新しい住居表示が実施されました。  
香典袋には新しい、住所、氏名を「ハッキリ」記入されるようお願いいたします。

例 地御前北一丁目一一一  
御香典 氏 名  
裏に金額を記入して下さい。  
(町内会連絡協議会 増村)

## 事故多発交差点の 工事について

地御前野坂線の西広島バイパス交差点は、事故発生件数が多く次の要因について改良するよう折衝を行いました。

- 一、二車線道路の幅が狭くて右折車の待避線が設置してない。
  - 二、地下道出入口の建物、屋根で見透しが悪い。
  - 三、バイパス道路の基礎工事が悪く上下の振動が特に激しい。
  - 四、交差点の東西よりの「こう配」で追突事故が多い。
- 建設省国道事務所や市役所に、度々折衝しても進展せず、バイパス道路の振動が更にひどくなり周辺の住宅より苦情が多くなり、国道事務所との現場交渉に地元議員に立会って頂きました。
- 陳情にも出席して頂き事故防止等で強く交渉して頂き本年になっ

# 野坂中学校開校にあたって

皆さんと共に念願して居りました野坂中学校もいよいよ本年四月開校のはこびとなりました皆様方の平素より学校教育につきまして御協力を感謝致します。

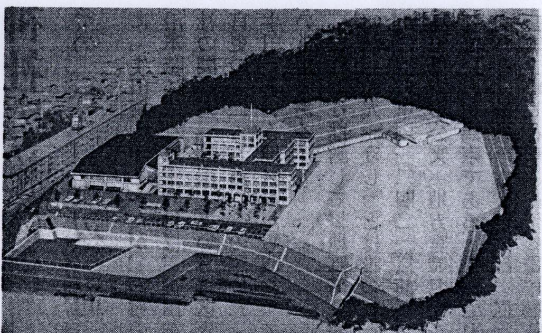
野坂中学校についての概要をお知らせ致します今後其地域の皆様の御理解と御協力をお願い申し上げ立派な教育の場として発展して行く事を切に念願致す次第です。

### 野坂中学校概要

- 一、名称 廿日市市立野坂中学校
- 二、所在地 廿日市市地御前北一丁目三十一
- 三、敷地面積 約四千六〇〇平方  
米
- 建設費 約十三億七〇〇〇万  
円
- 四、開校 平成二年四月六日
- 五、通学対象地域  
地御前小学校学区  
宮内小学校学区(宮園、四季が丘を除く)
- 六、学級数 一六学級
- 七、生徒数 約五百六十人

### 施設概要

- 一、普通教室 鉄筋四階建  
一六教室
- 二、特別教室  
理科教室 音楽教室  
美術教室 視聴覚教室  
特別活動教室 教育相談教室  
図書室 以上一教室



## 春うらら



花の便りが聞かれる三月五日、コミュニティ生活部と、婦人会の共催で、永福学級との交流会を開きました。

この会も六回をむかえ今回は一〇三人の参加がありました。  
お弁当は度々食事指導を受けております中から季節のもの、パランスのとれたものを考へ献立をたてております。

「ありがとう おいしかったよ」と云われた時は、疲れも吹きとんでしまひます。

食後は歌を唄ったり、地元の方の作られた桜島大根の重さ当て、クイズや三滝寺御住職さんの「心をみつめて」と題する御講話を聞き楽しいひとときを過しました。

又二月十九日には一人暮らしの方や寝たきりの人達の食事も造り喜んでいただきました。  
参加者より「こんな会を度々してほしい」との声も聞かれ私も含めて、高齢者社会に向け真剣に考へる時期に来ていると思ひます。  
最後になりましたが、何時も各方面よりのご協力を感謝しております。紙上をおかりして厚く御礼申し上げます。

婦人会 大原





# じとせんひろば



№. 34  
発行 平成 2. 7. 1  
地御前コミュニティ  
推進協議会

## 対話で きづく 明るいまちづくり

No. 3 4 - H 0 2

### 地御前に於ける神社廃絶の例

(その二) 渡辺 通

分掌分担、生徒の学級編成・教室等の配置、就任式・始業式・入学式の準備、教育目標・日課・生徒心得・一年生の制服の制定等と進めて参りました。

同時に、生徒の安全確保を第一に考え、生きていく上で必要な学力以下あらゆる力の基礎づけをすることを第二に考えて、授業・ホームルーム・部活動等を進めていますが、まだまだ新設校として取り組まねばならない課題が山積しています。

幸い教頭以下の教職員が立派な者ばかりですから、予想以上に教育効果を上げていると確信しています。

今後とも皆様方に、引き続きご指導・ご支援を賜りますようお願い申し上げます。新設校初代校長としての感想に代えさせていただきます。

### 還歴を越えて

思ひこと

いつの間にか歳をとり、平均余命を考えなくてはならない歳となった。古来年令別関心事のことわ

周防の大内弘世は正平十八年「一才乳に泣き、十才菓子に泣く、二十才愛に泣き、三十才金に泣く、四十才地位に泣き、五十才名譽に泣き、六十才老に泣く、と云うが、六十の坂を越えて、さてこれからである。はずかしながら次のことわざ通りになりつゝ、あるこのころである。しわがよる、はくろができる、腰かがむ、頭は禿げる、毛は白くなる、手は震う、足はひよろつく、歯は欠ける、目はうすうなり耳は聞こえず、身に合うは頭巾、襷巻、杖、眼鏡、炬燵、懐炉にしびん、孫の手。くどうなる気短かななる、愚痴になる、思いつくこと皆古くなる。聞きたがる死にともながる、さみしがる、出しゃばりたがる、世話やきたがる、またしても、同じ話で孫はめる、達者自慢でひとをあなどる。

心して若い者にきかわれない様に余命を頑張りたいと思う。

K・I 生

### 対話のある街じとせん

### 本を読みましよう

今、国をあげて生涯学習、赤ちゃんから高令者まで、一人一学習を目標に、明るいまちづくりを提唱している時、市でも去る六月三日に、市民四百数十名の参加を得て盛大に「生涯学習まちづくり宣言市民大会」を開催されました。その時、文部省生涯学習局社会教育官の福留強氏の講演を聴講することが出来ました。

そのお話の中で、本を読む、についてのご意見に私は共鳴したのです。それは、私が日ごろから考えていた「本は赤ちゃんの時から必要」ということと一致したからです。

本は赤ちゃんの成長に欠かせない役割を持っています。本の出会いこそ、人間性豊かな人になるチャンスを与えてくれるからです。この時代に、両親をはじめ、大人はその手助けをし、本の世界へ入れてあげるのです。子供達の間関係をつくり、維持してゆくの



に、本ほどよいものはありません。最近、思春期の子供の親子のコミュニケーションの崩壊が多いといわれています「うちの子は親に何にも話してくれない」「あの子は親の気持ちなんて知ろうとしてはくれない」等と云っている親たち、その原因をさぐってみると、思春期以前に、意見や考えを話し合っ

ていなかったのです。これらは、対話の習慣が身につけていないためだと思われまます。対話があれば人間関係をそこなうことはないでしょう。

それを身につけるには「本」が重要な役割を果たすのです。本は其の性質上、言葉と切り離せません。ことばは、私たちのコミュニケーションの本質であり、人間関係にとって見のがせないものです。子どもの時から本を読むことの大切さはこれらのことでもわかると思います。

読書によって感性豊かな人が育てば明るい家庭が築けるし、明るい家庭が多くなることにより、明るい街づくりも可能だと思えます。幸い地御前公民館の図書室には、他の公民館に負けない沢山の本があります。この本を皆さん有意義に活用して下さい。そうして親子の対話をふやし明るい家庭をつくってください。

地御前公民館長

永井 園恵



### 編集後記

じとせんひろば、も回をかきねて三十四回目の発行となりました。毎回のことが月なみにならないようにと思えます。皆さんの原稿をお待ちしております。

明治十九年八月に「湊恵社」の修復計画が始り、発起人は砂田兵三郎外、船持二〇名、明治二十一年正月現在積立金元利共三六四五十六銭に達し諸人用を除き残金三五五三三銭との記録がある「砂田の正集記」

にこの神社を造って祭り始めた。明治初年頃には社殿が荒廃していたので大阪通いの船主たちが社殿や木像を再建していた。其の後明治二十九年頃、山陽鉄道が布設のため、地御前港は埋立てられ御神体も盗難に遭い「商い胡子では御神体が上方へ移動するのを栄進とする慣習があり」盗難が多かった由、又明治末年に近く海運業も衰退し、本社も影を没した由、古老の話であった。



平成二年度

## コ推協事業計画

住民相互の連帯を図り、心のふれあう明るい住みよい共同社会の建設を目ざしながら、生きがいを創造し、うるおいと活力ある地域づくりを推進する。地域住民が古くからある郷土愛と奉仕の精神をふくんで、各種団体との連帯を密にしながらし新しいコミュニティづくりを推進する。

## 広報部☆☆☆

じこぜ、ひろばを発行しコミュニティ活動を広く紹介する。変り行く地域を紹介し、歴史のページにしたい。現在の提言及びコ推協活動の啓発。

## 体育部☆☆☆

地域住民の体力づくりを盛りあげるとともに、ふれあいの輪を広げる地区運動会を開催し子どもから高齢者まで一同に会し、体力増進と仲間づくりの場とする。

## 文化部☆☆☆

御陵衣祭、管弦祭、秋祭りの諸行事、盆踊り、どんと祭等、古くから伝わる文化的な諸行事を再現し、盛りあげ、子ども達のふるさとづくりと併せて仲間づくりとふれあいの場をつくる。

## 福祉部☆☆☆

高齢者及び福祉施設への支援活動を行い、地域の福祉活動を推進する。

## 生活部☆☆☆

地域住民の積極的な奉仕活動により、よりよい環境づくりを進め、快適な地域づくりを推進する。

また、公民館永福学級の諸活動を支援し、住みよい町づくりをめざし、ボランティア活動の輪を広げる。

## 青少年部☆☆☆

青少年の健全育成活動を推進する。地域社会の中で青少年を取りまく社会環境の浄化を図り、特に夏休み中における非行防止の気運をより上げるための啓発活動を実施する。

## 地御前地区

## 楽しかった運動会

五月二十日(日)地御前地区運動会が開催されました。

三年つづきの雨で屋外開催は久しぶりのことで、五月晴の空のもとに小学校グラウンドにおいて、九時、開会式に大会会長そして来賓の挨拶で始まり、競技一回目のボール送りから最後の男子年代別リレーまで、どの競技にも熱が入り一生懸命やっておられる中で人と人の出会いが出来そして会話が始



まっている姿があらこちらで見うけられました。

そして他の地区では見られない地御前地区だけのチアガールの演技、どここの区の演技も大変可愛いくて上手でした。

消防の初期消火活動も大変人気があり非常に勉強になりました。今後消防団の方々、消防署の方々の御健康と御活躍を心からお祈り致します。ありがとうございます。

最後になって申し分けございませんが、各町内会の会長さんを始め、子供会、各種団体、世話人の方々本当にありがとうございました。おかげ様で人と人の輪が出来住み良い地御前になりつつあると思います。今後とも宜しくお願い申し上げます。

コ推協体育部

## 新設野坂中学校

校長 遠藤節男

本校の新設につきまして、関係者の方々に先ず衷心より深く感謝申し上げます。

教育効果を上げるために中学校

平成2年度地御前地区コ推協収支予算書

| 収入の部 (単位 円) |         |              |
|-------------|---------|--------------|
| 項目          | 予算額     | 内 訳          |
| 会費          | 280,500 | 150円×1,870世帯 |
| 助成金         | 160,000 | 市よりの助成金      |
| 諸収入         | 10,500  | 寄附、預金利子      |
| 繰越金         | 31,539  | 平成元年度より繰越金   |
| 収入合計        | 482,539 |              |

| 支出の部 (単位 円) |         |                                                                                                      |
|-------------|---------|------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 項目          | 予算額     | 内 訳                                                                                                  |
| 運営費         | 40,000  | 会議費 5,000<br>事務費 10,000<br>地域活動費 15,000<br>雑費 10,000                                                 |
| 事業費         | 43,500  | 報 告 費 120,000<br>文化 費 50,000<br>文 化 費 80,000<br>福 祉 費 150,000<br>体 育 費 20,000<br>生 活 費 15,000<br>青少年 |
| 予備費         | 7,539   |                                                                                                      |
| 支出合計        | 482,539 |                                                                                                      |

平成元年度地御前地区コ推協収支決算書

| 収入の部 (単位 円) |         |                                           |
|-------------|---------|-------------------------------------------|
| 項目          | 収入済額    | 内 訳                                       |
| 会費          | 186,200 | 100円×1,862世帯                              |
| 助成金         | 160,000 | 市民課より                                     |
| 諸収入         | 37,000  | 文化保存会 15,000<br>民舞踊 20,000<br>田屋町内会 2,000 |
| 預金利子        | 678     |                                           |
| 繰越金         | 56,198  |                                           |
| 収入合計        | 440,076 |                                           |

| 支出の部 (単位 円) |         |                                                                                                                                |
|-------------|---------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 項目          |         | 内 訳                                                                                                                            |
| 運営費         | 33,174  | 会議費 4,367<br>事務費 12,704<br>地域活動費 7,000<br>雑費 9,103                                                                             |
| 事業費         | 364,372 | 報 告 費 94,760<br>文化 費 37,000<br>文 化 費 69,936<br>福 祉 費 135,631<br>体 育 費 20,000<br>生 活 費 7,045<br>青少年 署名、コピー代 9,991<br>大会参加 1,000 |
| 予備費         | 10,991  |                                                                                                                                |
| 支出合計        | 408,537 |                                                                                                                                |

収入合計 440,076  
支出合計 408,537  
差引残高 31,539 平成2年度へ繰越

の新設を市や県に懇請していただき、連日連夜、設計から開校式までお骨折りいただきました市教育委員会の方々、懇請を受けて実現にご尽力いただきました市役所・市議会・県庁・県議会・県教育委員会・地権者・近隣町内会の方々等沢山の方々に改めて御礼申し上げます。

開校式は四月六日、前日から準備していただきました市教育委員会・来賓・本校教職員・生徒が見守るうち、午前九時、市長・地元県議会議員・市議会議員・市教育委員長・校長の五名によるテープカットが行われました。

その後、立派な体育館内の式場に県教育委員会・県議会議員・県地方課長・市議会議員・市議会議員・土地開発公社局長・各学校長・各町内会長・地権者の方々等多数の来賓のご臨席と市長・市教育委員会委員長・教育長・本校教職員・生徒の列席のもと、開校式が市教育次長の進行で厳粛のうちに盛大裏に挙行されました。

式は市教育長の開式の辞、本校音楽教諭のピアノ伴奏による国歌斉唱、市教育委員長の式辞、市長の挨拶、広島教育事務所長・地元

県議会議員・市議会議員の祝辞、市教育次長による本校教職員の紹介、市長に誓う形での学校長挨拶と続きましたが、私は挨拶の中で、本校教職員・生徒一同は、全国的にみても大変立派な施設・設備を活用して、新しい歴史を創っていくことを光栄に思うこと、これ程まで教育に高い関心と期待とお寄せいただいている関係者の方々に感謝申し上げます。全校一丸となって優れた学校の実現に精一杯努力するむね誓うなどを申し上げました。その後に生徒代表が市長に誓いのことばを述べ、市教育長の閉会の辞で開校式は終りましたが、立派な施設・設備をもつ新設校に配属され、新しい校風を創ることができまず境遇を、校長以下全教職員が無上の光栄と感激いたしました。

更に感激いたしますことは、教育熱心な保護者が多数おられることです。開校前からPTA設立について準備をされ、開校後は総会と委員総会の開催、陳情書の提出、挨拶運動等にお骨折りいただきました。スムーズな開校にお力ぞえ

開校後は、教職員の学年所属と